

学力向上をめざして

足利市立毛野中学校学力向上対策委員会

1 学力向上対策の必要性和本校の研究ならびに実践のあゆみ

県の問題点解明のための追跡調査等の結果から反省してみても、本校の状態が必ずしも満足すべきでないことは、お互いによく知っているところである。

そこでこれらの問題を解決すべく毎年種々方策をたてて努力してきたが、一朝にしてこれを解決することは容易なことではなかった。

そのため本校は、昨年度を初年度として学力向上対策委員会を発足させ、この解決に全校あげて取り組んできた。42年度はとりあえず次の3つを重点目標として実施してみた。

- (1) 漢字書取り練習 (2) 診断テストの実施とその利用 (3) 家庭学習の振興

昨年度はどちらかという学力の実態は握り重点をおいたため、実践面では不満の面も多々あったので、本年度はそれらの反省にもとづき効果的な実践活用に重点をおくと同時に、今までばらばらに計画され実施されてきたものを整理統合し、お互いの関連がはかれるようにしたい。

2 学力向上対策の基本方針

学力向上の全体的計画を作成するにあたり、企画運営の基本的立場として以下のような方針を決めた。

- (1) 教育課程運営の正常化をはかる。

ア 生徒の能力を開発し、のぞましい人間性を伸長するために、各教科、道徳、特別教育活動、学校行事等の四領域の均衡をじゅうぶんに考慮することを基本とする。

イ 関係会合、行事等の整理精選を積極的に行ない、授業時数の確保につとめるとともに、放課後の自由時間には、クラブ活動、図書館活動を盛んにし、生徒の学校生活を豊かにするために、心身の健全育成につとめる。

- (2) 学習指導の合理化・能率化をはかる。

ア 生徒の自主的学習態度の育成を重視する。

生徒自身が計画的、継続的な家庭学習を行ない、復習において自分の力を確かめ、予習によって次の学習の構えをもちうるような準備ある学習態度を確立するよう指導援助する。

・家庭学習のプログラムの設定 ・家庭学習の実態調査とその指導 ・課題学習への努力

イ 教師も生徒も毎時間の授業をたいせつにし、従来にもまして教材の研究を熱心に行ない、基礎的・基本的な事項が生徒のひとりひとりによく理解され、定着するよう指導の方法をくふうする。

・個人指導の機会を多くする。

・個人の評価をこまめに行ない指導の手がかりとする。

・指導内容を精選する。(基礎的・基本的事項の徹底をはかる)

・年間テスト計画を作成し、定期的な評価を行なうことにより、個人指導の手がかりにする

とともに、指導計画に改善を加えたり、進路指導の資料として活用する。

(3) 自主的・自律的生活態度の確立をはかる。

ア 学級経営の充実、生徒会活動の適正化などにつとめ、生徒相互、教師と生徒の人間関係を円滑にし、信頼と友情のあふれる生活環境の形成につとめる。

イ 生徒の家庭生活時間を検討し、自由と規律のある生活態度の育成をはかり、生活にリズムを与える。

- 生徒の発達段階や家庭環境および健康状態に即応する生活プランを作成させる。
- 基本的なしつけを実践的に指導する。
- 家庭学習の内容や方法について、具体的に指導する。

3 学力向上対策

前述の基本方針にもとづき、本年度、本校で実施した具体的な対策を要約してみると次のようになる。

(1) テスト計画の作成とその利用

- フィードバック方式による事後指導（指導計画の改善）

(2) 読書力の養成

(3) 家庭学習の振興策

(4) 指導法を中心とする現職教育の充実

これらの問題についてさらに詳しく述べてみる。

◎ 診断テストとその追跡調査の実施

今までは第1回のテストにおける結果の分析まで行ないそのおちくほみ是正のための指導を行ってきたが、その指導後の結果のたしかめまでは実施しなかった。

本年度はもう一度追跡調査を行なって、どこまでおちくほみが補えたかを調査してみた。

実際にやってみて、いかにこれがたいせつであるかお互いに認識を新たにしている。

◎ 学習適応性検査の実施と教育相談の実施

学力診断テストの実施にともない学業不振の原因をさぐるために、学習適応性検査（AAI）を実施し、生徒個々の学習態度、学習技術、環境等を調査して実態をは握して教育相談実施の際、指導の資料と活用の充実につとめた。

◎ 補教（自習時間）の活用と充実

教師の出張、休暇等の補教問題であるが、今までは事前に自習等がわかったときは振り替え授業、または自習問題作成等で時間を有効に活用してきたが、突発的自習のときは、補教にあたった教師が非常に苦勞して、何とか自習時間のうめあわせをはかった。

しかし実際問題としては、じゅうぶんとはいえなかった。

そこで本年は5教科（国社数理英）について既製のテスト用紙を購入してある程度計画的にこれを有効に活用するように努力した。

◎ 移動文庫の設置

読書調査をしたところ、生徒の読書量が非常に少ないことがわかった。図書室の利用について機会あるごとに指導したが、なかなか効果があらわれなかった。

そこで各学級に、移動文庫と称して小さな箱を用意し、図書委員が毎週図書室から20冊程度借り受け、それを教室に備えつけて、適宜その活用ができるようにした。利用は朝、業間時、昼休み、放課後等、特に雨天時における室内の生活指導とも兼ね一石二鳥をわらいとした。

◎ 教材打ち合わせ

1教科2人以上で担当している教科を中心として必要に応じてどの週でも(1ヶ月1回、第1週は必ず)授業時間内に同じ空き時間を作って、共同の研修の場を、行事予定ならびに日課表の中にはっきり位置づけて実施した。

以上おなるものについて概略を述べたが、これらを含めて現在実施しているものを表に示してまとめてみる。(表省略)

4 今後の課題

昭和43年度において一応形のみは整えたが、これらの効果的な運営並びに質的な向上となると、まだまだ問題点が多い。

そこで来年度は

・総合テスト ・指導法の充実 ・家庭学習の振興 ・読書力の養成 ・四領域の相互関連などを重点的に取りあげてみることにする。

(1) 総合テスト計画の目的とその結果の処理ならびに進路指導への利用

ア 総合テスト計画のめざすもの

県ならびに本地区とも課外を全面的に廃止したわけであるが、1年は1年、2年は2年なりに自分の将来の進路とそれともなり自己の能力をはやい機会にみつめさせ、毎日の学習をより真剣にさせるとともに、最終学年になったとき、あわてずスムーズに進路決定ができるようにするための資料とする。

また教師にあっては、随時おちくぼみ是正のための指導と、指導法の研究改善に役だてるようにすることを目的とする。

イ 昭和44年度テスト計画一覧 (省略)

ウ テストの内容と結果の処理

総合テスト

- ・9教科実施する。ただし1年1学期に関しては4教科(国社算理)とする。
- ・配点は全学年、全教科とも100点で900点満点とする。
- ・テスト時間は1教科50分とする。
- ・テスト範囲は既習範囲より、3年生のみ模擬テスト形式とする。(標準化された問題)
- ・努力のあとを発行する。ただし3年生は5教科についての結果を別に作る。

中間テスト 期末テスト

- 総合テストに準ずる。ただし結果は学年だよりなどをもちいる。

診断的学力検査

- 第1回が6月、第2回が9月で同一問題で実施する。
- 8月中に知能検査との比較をする。
- アンダーアチーバー、オーバーアチーバーの発見と治療
- 個々の生徒の教育相談の実施
- 学年、学級のおちくほみを発見して夏休み中の課題とする。

なお教育課程に位置づけてのフィードバックによる意図的、計画的な事後指導

- 1週間にわたって教科内で実施する。

学習適応性検査

- 7月中に実施し、処理は夏休み中にする。

エ テストを実施するにあたっての留意事項

a 事前指導

教科担任は

- 出題のわらいをはっきりさせる。
- 解答のしかたならびに準備すべきものを明確にする。

学級担任は

- テストを受けるための家庭学習計画の指導
 - △ 復習するためのプログラムの作成
 - △ 既習内容の整理と復習のしかた
- 理解されていないものを明確にし担当の教師に質問するように指導する。

b 事後指導

教科担任は

- 必ず模範解答をしてやる。
- 誤答分析をして正答率の低いものについては補充学習計画をたてる。

学級担任は

- 教育相談の実施
 - △ 特に悪かったもの、のびなやんでいるものなどを中心として放課等を利用して個人別に実施
 - △ 間違いや、理解されていないものの原因の探究と今後の学習のし方の指導

c 保護者に連絡するもの

- 年間のテスト計画を印刷配布
- 努力のあと発行
 - 総合テストのみ(各学年とも年3回)
- 学年だよりの発行
 - 中間 期末テストの結果の通知

診断テストの結果の通知

・三者懇談の実施

3年生は年2回（7月，12月）

1，2年生は年1回（12月）

以上のことを要約して一覧表にまとめる。

	事 前		事 後 処 理							
	準 備	日割・時間割	模 範 解 答	小問別 正答率	誤 答 分 析	プロフ ィ ー ル	努力の あ と	家 庭 通 信	期 待 値 と の 比 較	知 能 と の 相 関 図
総合テスト	出題範囲と ねらい 問題作成 準備用具	1週間前に 係りが発表 (1日3教科)	○	○	○		○		○	
中間・期末 学年末テスト	"	"	○	○	○			○	○	
診 断 的 学 力 テ ス ト		時間割の係 りがテスト時 の割りふり (1週間内 のその教 科時利用)	○		○	○		○		○
学 習 適 応 性 検 査		学級担任が テストの日・ 時を決定				○				

(2) 指導法の充実（校内研修）

学力向上の根幹は、毎時間の授業にあることはいうまでもない。本年度は教科打ち合わせに重点をおいて研修をしてきたが、今後は指導法を中心としてお互いが気楽に授業を公開しあい、研修をさらに深めていきたい。（他教科との関連をじゅうぶんはかる意味において、単に同一教科担任だけでなく、他教科の先生も含める。

実 施 方 法

ア 他教科との関連を深める。

- ・月1回，1教科を原則として授業を公開（8月を除き4月から1月まで）
- ・どの月が他教科と関連が深いかを検討して，教科主任を中心として希望月を申し出てもらい計画をたてる。
- ・できるだけ関連教科の先生が参観できるように空き時間等のみて計画する。
- ・その日の放課後教科の関連について研修する。

公開教科	関連教科	公開教科	関連教科
国	全教科	美	社 保体 技家
社	国 美 理	技家	美 保体 理 数
数	理 技	保体	理 家
理	数 技 保体 社	英	音 数
音	保体 美		

- 1・学級担任は自分の教科以外にクラスの生徒がどのような授業態度でやっているかを観察する。
- ・学期1回、家庭訪問ならびに三者懇談実施前の1週間を授業参観週間として空き時間等を利用して観察する。

(3) 家庭学習の振興

2年連続して重点的に取りあげて研究したが、家庭学習を振興させることは極めてたいせつであると感じている。過去2年にわたる実態は握をさらにおし進めて来年度は、家庭学習の充実に努力してみたい。

そのためには、家庭学習の効果的な指導と父兄の理解協力が得られるような方策を樹立したい。

(4) 読書力の養成

移動文庫と、本年はじめて読書感想文の校内発表会を実施したが、図書委員を中心とした図書館教育を総合的に検討して、より効果的な読書意欲の喚起と発表力の養成につとめたい。

読書力養成のための方策

ア 図書館利用についての指導

- ・全生徒を対象にして毎年、年度始めに図書館利用についての指導の充実、その内容は閲覧、貸出しのきまりと簡単な図書分類についての知識、諸注意など。

イ 読書感想文の指導

- ・感想文の発表コンクール形式は、どうしても弁論会のようになる傾向が強いので、文集等を作成することとする。

ウ 図書室の配置がえ

- ・図書館の合理的利用（視聴覚教室を含めて）
暗幕設備が完了 配置がえは検討中

エ 雑誌購入

- ・雑誌の選定、購入年間計画の作成

オ 読書調査とその結果の反省

- ・魅力ある本をより多く購入する。（よみたい本がない）
- ・古い本の整理
- ・図書委員の教育（教育計画の作成）

カ 学級貸出し（移動文庫）

- ・年間を通して学級貸出しする。
- ・あまり長い期間にならないよう注意する。
- ・学級活動の時間に借りてくる本の内容について話し合い。

キ さよりなら学活に図書室を利用する。(クラス月2回)

- 図書室で学活をやるときは伝達その他の活動をみじかくして、少なくとも20分程度は本に親しませ引き続き図書館で本を読むことや、本を借りる習慣形式につとめる。

(5) 四領域との相互関連の検討

43年度の課題になっていたが、本年度はここまで手がまわらなかった。来年度はぜひこの研究に着手したい。

以上44年度の重点課題をあげてみた。

長期的なものとして今後検討したいものは

- 個々の生徒の実態に即した課題のくふう
- テスト内容の分析研究
- テスト結果の処理と資料の収集および活用

などである。

教師は自ら常に教材研究をし、指導法の改善に努力することはもちろんであるが、これらを推進できるかできないかのカギは教師の意欲にある。お互いが協力しあってやってみようという意気があがってはじめてその効果が期待できることは今さら論を待つまでもない。お互いがひとつの目標に向かってまい進して行くときに道はひらけ、学力向上もありうると思う。それにともなって問題生徒も激減し活気あふれた学校が営まれるのではないだろうか。

評

県・市教委の重点施策である学力向上対策を、2か年にわたって全職員で取りくみ、学校経営全般から、本校の生徒の実態、学校の実情に即応して学力向上対策を明確に表示されている。方針にあるように、正常化、学習指導の合理化・能率化、自主的・自律的生活態度の確立など、学校教育全体をとおして対策を講じていることや、具体的には、診断テストとその追跡調査による生徒の実態は握、学習適応性検査結果も生かした教育相談の実施や図書館教育による読書指導など、多岐にわたる施策は、他校の参考になる事項が多くあると思う。これを機会に、各校とも、自校の実態に即した学力向上対策が講ぜられれば幸いに思う。終わりの文にあるように、教師の意欲と精進によって、全職員の共通理解のもとに、本市児童生徒の学力の向上をともども図ってきたいものである。